

第62回国際宇宙会議(IAC) ケープタウン大会におけるJAXA活動報告

※JAXAがIAC大会に一部参加したので、その概要を報告する。

平成23年10月26日

宇宙航空研究開発機構(JAXA)

国際部長 田中哲夫

国際宇宙会議 (IAC: International Astronautical Congress)

- 主催：国際宇宙連盟 (International Astronautical Federation: IAF)
国際宇宙アカデミー (International Academy of Astronautics: IAA)
国際宇宙法学会 (International Institute of Space Law: IISL)

- 概要：毎年秋季に開催し、世界の宇宙関係機関や企業、大学等の関係者が参加。各国・機関の宇宙開発計画、学術研究成果の発表の場として、学生や展示参加を含め、全世界から数千名規模の参加を得る、名実共に世界最大の宇宙関連会議。



JAXA 展示ブース

<第62回国際宇宙会議 (IAC) ケープタウン大会の概要>

- (1) 期間：平成23年10月3日 (月) ~ 10月7日 (金) (5日間)
- (2) メイン会場：International Convention Centre (ケープタウン)
- (3) テーマ：“African Astronaissance”
- (4) 参加者：約 2,950名 (主催者発表)

主なJAXAの参加イベント

- 10月3日(月)
 - ・開会式 (10:00 – 12:00)
 - ・展示施設開会式 (12:00 –)
 - ・プレナリーイベント1: 宇宙機関長パネル (13:30 – 15:00)
 - ・サイドイベント:
 - ISEB(国際宇宙教育会議)メンバー機関代表と学生との質疑応答 (16:00 – 17:00)
- 10月4日(火)
 - ・サイドイベント: 学生イベントでの JAXA Day (11:00 –14:00)
- 10月5日(水)
 - ・The Global Exploration Roadmap (8:15–9:00)
(国際宇宙探査協働グループ(ISECG)での検討状況紹介)
- 10月6日(木)
 - ・Seminar on Japan–South Africa Space Science and Technology (10:00–12:00)
 - ・第20回宇宙法模擬裁判大会 (14:30–18:00)
- 10月7日(金)
 - ・閉会式 (17:30 –18:15): Allan D. Emil記念賞授賞式(白木前JAXA理事受賞)



宇宙機関長パネルでの
JAXA 立川理事長

○日時:10月3日(月) 13:30 – 15:00

米国航空宇宙局(NASA)、欧州宇宙機関(ESA)、ロシア連邦宇宙機関(FSA)、JAXAの各機関長及びインド宇宙研究機関(ISRO)より以下の活動状況の説明があった。

・JAXA 立川理事長

東日本大震災支援への謝辞を述べた後、JAXAの活動として、HTVやみちびきの打上げ成功、日本の宇宙飛行士活動状況、あかつき・イカロスの状況、今年12月に日本で行うISS利用ワークショップやアジア太平洋地域宇宙機関会議(APRSAF)活動を紹介した。また、地球観測において日本が長期継続的な国際貢献に取り組んでいくことに言及した。

・NASA ボールデン長官

今年5月のシャトル最終打上げ(30年運用、135回打上げ)等と言及し、ISSでの国際協力を初めとして、厳しい予算状況のなか、宇宙事業を推進するには国際協力が不可欠である点に言及した。

・ESA ドーダン長官

ESAはアフリカにアリアン5ロケットの追跡管制局を有していること等を例示してアフリカとの協力の重要性を強調。ソユーズによるガリレオ打上げにおけるロシアとの協力、火星探査ミッションシミュレーションにおける中国、ロシアとの協力等、ESAが実施する国際協力を言及した。

・FSA ポポフキン長官

今年の自国ロケット打上げ失敗を契機に、宇宙技術の難しさを再認識したことに触れると共に、ISS計画を元にも戻すべく11月14日にソユーズ打ち上げを行うことに言及。今後の大規模な探査計画実現のための国際協力の重要性を強調した。

・ISRO Navalgund氏 (ISRO Space Application center 所長)

インドの昨年実績として、2つの地球観測衛星、3つの通信衛星打ち上げ成功を紹介するとともに、今年10月12日にメガトロピーク衛星打上げを予定していること等を紹介した。

JAXAの関係する広報・教育活動

○ JAXA展示ブース

IACに展示ブースを開設し、5日間の会期中に約1,400名の来訪者に対して、広報活動、日本の宇宙開発技術や宇宙関連企業の紹介等を行った。

具体的には、①はやぶさイオンエンジン(1/1レプリカ)、②帰還カプセル(1/1レプリカ)、③IKAROS(1/64スケール)、④しずく(1/4スケール)、⑤だいちやいぶきを含めた地球観測衛星観測画像を展示し、①②を用いてイオンエンジンの仕組みや帰還カプセル構造を説明、③を用いて帆の素材や展開方式など技術的説明を行い、④⑤を用いて災害管理や地球環境監視での世界貢献をPRした。

○教育活動: 国際宇宙教育会議(ISEB)メンバー機関代表と派遣学生との質疑応答 (3日16:00-17:00)

NASA・ESA機関長、JAXA堀川技術参与が登壇。堀川技術参与は「日本の有人宇宙飛行ミッションについて」、「はやぶさから学べること」および「国や文化を超えた国際協力」について学生と質疑応答を行った。

○第20回宇宙法模擬裁判大会 (6日14:30-18:00)

予選を勝ち抜いた学生による最終戦がケープタウン市裁判所にて開催され、「地球環境の汚染と宇宙活動における有害な妨害 行為に関する事件」に関する事例が競われた。JAXAが派遣したアジア・太平洋代表のシンガポール大学が準優勝した。

○ 受賞について

- (1) 国際宇宙連盟(IAF)の審査委員会(2011年3月)において、白木邦明氏(現JAXA技術参与)への第35回Alan D. Emil記念賞授与が決定、第62回IAC(10月7日ケープタウン)において受賞した。
- (2) ISS(国際宇宙ステーション)の成功と輸送システム技術への傑出した貢献が認められ、今回の受賞となった。本受賞により、我が国のISS計画における日本実験モジュール「きぼう」の開発と宇宙ステーション補給機(HTV)の成功によるISSへの貢献が世界に認められる形となった。
- (3) 1994年に受賞した斎藤成文氏(東京大学生産技術研究所名誉教授、1986~1991年宇宙開発委員長代理、1975~1977年日本ロケット協会会長)に続き、単独日本人としては2人目の受賞となる。(グループ受賞も含めると、小田稔氏(1987年受賞)も含め日本人としては3人目)

○ Alan. D. Emil記念賞の概要

- (1) IAFで最も名誉ある賞で、合衆国の著名な弁護士として知られるアラン・ディー・エミル(Allan D. Emil)の名をとり、1977年より始まった。
- (2) IAFの審査委員会により年一度選考が行われ、宇宙科学、宇宙技術、宇宙医学、または宇宙法の分野で顕著な功績を残した人物で、自国のみならず他国一カ国以上の参加、もしくは宇宙科学の更なる国際協力の可能性を促進させた者に贈られる。
- (3) 毎年、国際宇宙会議(International Astronautical Congress)の閉会式にて、受賞者に表彰状とエミル団体から賞金が贈呈される。



Alan D. Emil氏(1898~1976)は飛行の分野で合衆国の主要な弁護士として活躍した。後に、宇宙航行科学協会(Institute of Aeronautical Sciences)の弁護人となり、同協会と米ロケット協会(American Rocket Society)を合併させ、AIAA(American Institute of Aeronautics and Astronautics)を結成させた。

Alan D. Emil記念賞は、彼の飛行と宇宙技術に対する高い関心や、国際主義者・人道主義者・平和主義者として生きた生き様を反映している。

(参考) 過去の主な受賞者

- 2010 Nikolay Anfimov
- 2009 Wei Sun
- 2008 Conrad Lautenbacher
- 2007 Gerhard Haerendel
- 2006 Oleg Alifanov
- 2005 Ernesto Vallerani
- 2004 Krishnaswamy Kasturirangan
- 2003 Liu Jiyuan
- 2002 Jean-Claude Husson
- 2001 Richard Kline
- 2000 Marcio Barbosa
- 1999 Edward Stone
- 1998 Alvaro Azcarraga
- 1997 James Harford
- 1996 Anatolyi Grigoriev
- 1995 Karl Doetsch
- 1994 Shigebumi Saito (齋藤 成文)
- 1993 Hubert Curien
- 1992 George Müller and U. Ram Rao
- 1991 Guy Severin and Yuri Semenov
- 1990 Oleg Gazenko, Arnauld Nicogossian and Karl Klein
- 1989 Johannes Geiss
- 1988 Vladimir Kopal
- 1987 Ruedeger Reinhard, Burton Edelson, Roger Bonnet, Roald Sagdeev and Minoru Oda (小田 稔)
- 1986 Robert Freitag
- 1985 Hans Hoffmann
- 1984 Lubos Perek
- 1983 Roy Gibson
- 1982 Roger Chevallier
- 1981 Peter Jankowitsch and Leonid Sedov
- 1980 Thomas Stafford
- 1979 Santiago Astrain
- 1978 Konstantin Bushuyev and Glynn Lunney
- 1977 Charles Stark Draper



今回受賞した表彰状